

ゴリラとゾウから学ぶ 生物多様性とビジネスのこれから

趣旨説明

リソナアジア・オセアニア財団・環境事業
総合地球環境学研究所・阿部健一



「生物多様性」という言葉

生態学者・保全生物学者が創った言葉

生物学的多様性 ⇒ 生物多様性

(Biological Diversity) (Bio-Diversity)

1990年代に一般社会に広まる

でもなぜ生物多様性を保全しなければならないのか

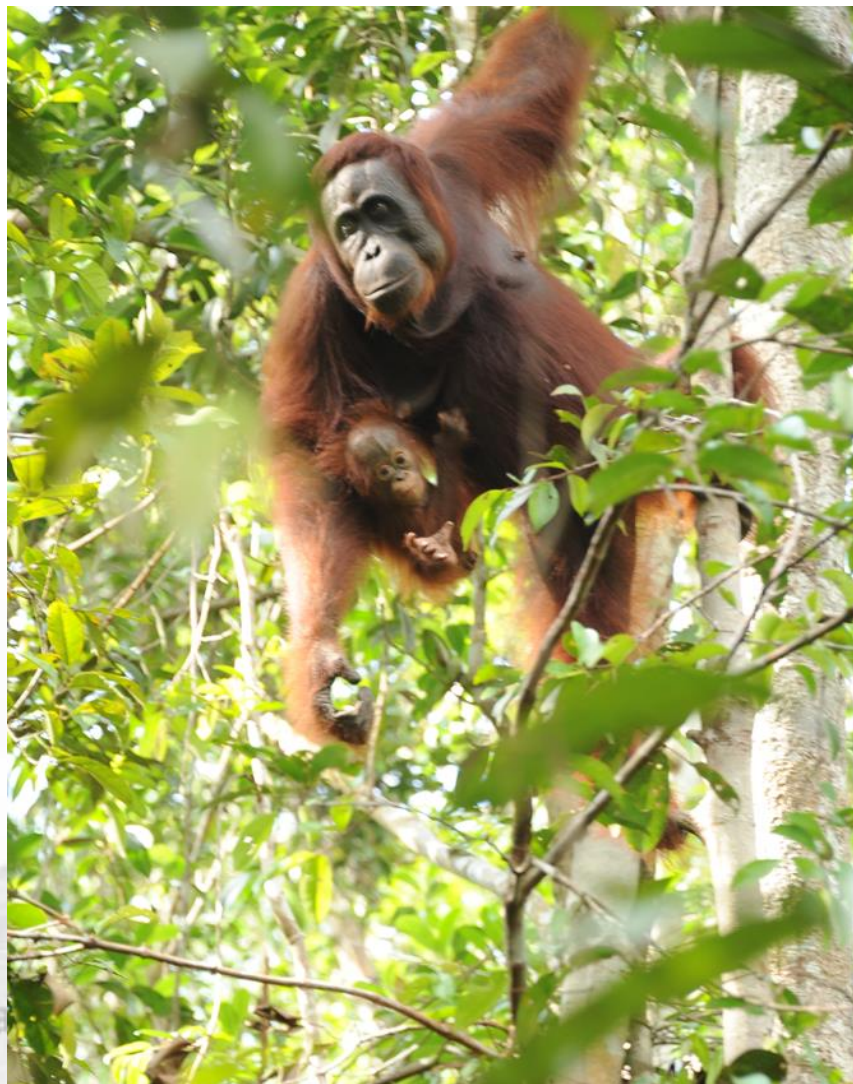
(Takacs 1996)

cf 「生きものを大切にしましょう」

政治家・企業家を巻き込むため



生物多様性という「関係価値」



1972年と1992年、そして2022年

1972年

国連人間環境会議(ストックホルム会議)

「人間環境宣言」

「かけがえのない地球 Only One Earth」

ローマクラブ「成長の限界」

国連環境計画(UNEP)の設立

1992年

国連環境と開発に関する会議(リオ・サミット)

「気候変動枠組条約」

「生物多様性条約」

「森林原則声明」



気候変動枠組み条約 スターン報告：「気候変動の経済学」

一貫して「コスト&ベネフィット」そして「市場」

「このままでゆけば」

B.A.U

Business as usual



Nicholas Herbert Stern, Baron Stern of Brentford (1946)
イギリス経済学者。世界銀行チーフエコノミスト・上級副総裁。
イギリス財務省・次官



スターン報告 2006年

緩和策－温室効果ガスの排出量を削減する対策－は**投資と見なすべき**である。現在から今後数十年間に支払われる対策コストは、将来ひき起されるであろう深刻な温暖化影響のリスクを回避するために有効だからである。もし、このような投資が賢明に行われるのならば、対処できる範囲のコストに抑えることができるだけでなく、さらに、**成長と発展の幅広い機会を得るチャンス**となる。



TEEB:「生態系と生物多様性の経済学」 2010年～

パヴァン・スクデフ Pavan Sukhdev

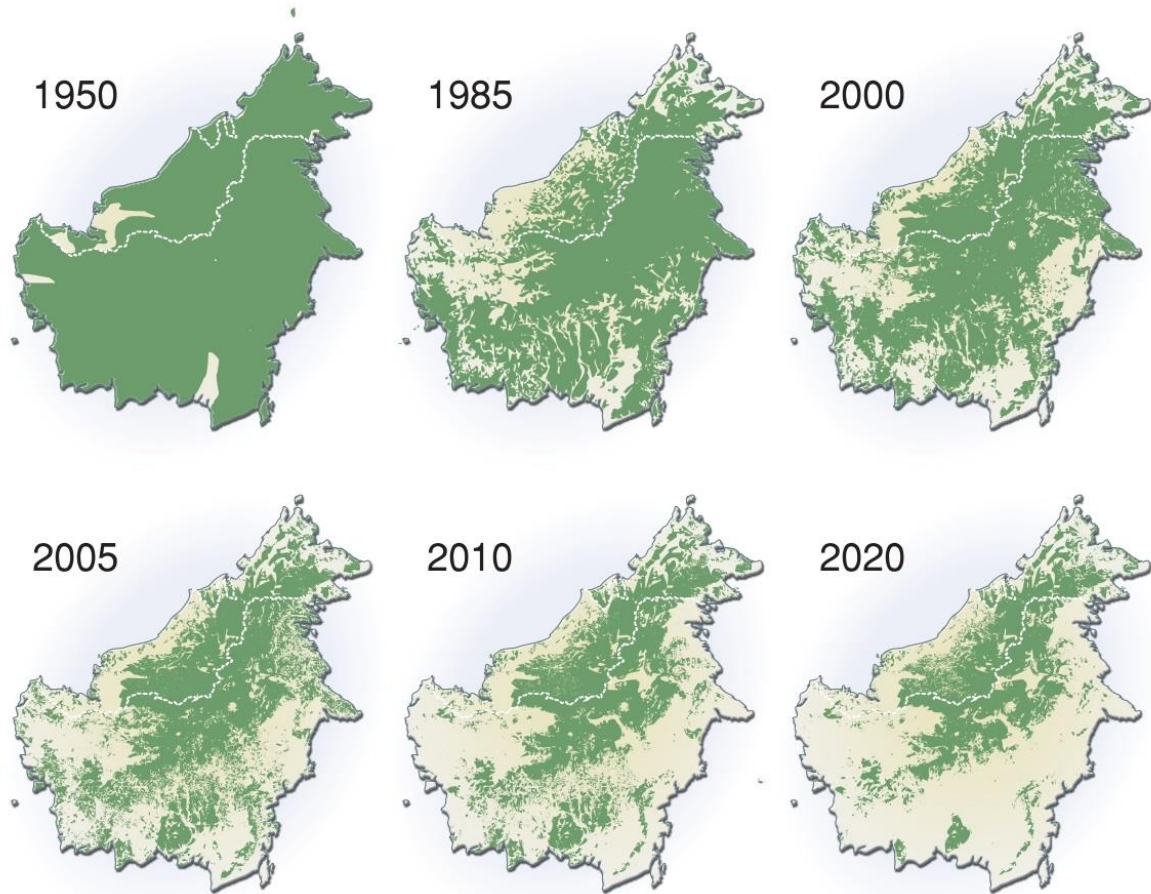
ドイツ銀行グローバル・マーケティング部門ディレクター・経済学者
インドの環境会計プロジェクト

「自然を大切にするために、
自然に値札をつけよ！」

「生物多様性のために、
長年の銀行家としての
経験を最大限に活かした」



ボルネオ島熱帯林の減少



WWF Germany + Univ. of California

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan







ゴリラとゾウから学ぶ

生物多様性とビジネスのこれから

動物の側から考える

『ゴリラの社会は生物多様性によってどう変
動するのか』 山極壽一氏

ビジネス・金融のトレンド

『生物多様性と金融 — 長期投資家から見た期待
と課題』 松原稔氏

NGO/企業の取り組み

『ゾウと子どもとカップ麺』 森井真理子氏

『地球市民宣言と環境』 更家悠介氏

